

終戦80年の夏 平和への思い新たに



黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下=8月15日、東京都千代田区の日本武道館

全國戰沒者追悼式

終戦から80年の節目の今年、8月15日に全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開催された。天皇皇后両陛下の御臨席の下、石破茂内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官、各国务大臣、各都道府県代表、関係団体の代表戦没者遺族ら約4500人が参列し、約310万人を数える戦没者に追悼の誠を捧げた。

天皇皇后両陛下
英靈に哀悼の祈り

のため、より良い未来を切り拓く」と強調した。
両陛下が標柱の前に進み深く一礼された。正午の時報に合わせ一分間に黙祷を捧げられ、両陛下に合わせ、参列者が同様に黙祷を捧げた。
続いて、天皇陛下がおことばを述べられた。
「本日、『戦没者を追悼し平和を祈念する日』に

人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」
額賀福志郎衆院議長
関口昌一参院議長、今嶺幸彦最高裁長官の追悼の辞の後、昭和20年8月に亡くなつた江田富治陸軍伍長の子、江田肇氏が遺族代表として追悼の辞を述べた。

世界は今なお侵略や民族紛争、宗教間の対立などで、多くの人々が犠牲となつていているが、我が国は、今こそ平和の尊さを世界へ訴えることが求められている」

この後、石破首相や衆院議長、遺族代表各団体代表者らが戦没者に黄色菊を捧げ、式典は終了した。

る。今日の我が国の平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることを、私たちは片時たりとも忘れない」とし、「あの戦争の反省と教訓を今改めて深く胸に刻まねばならない。この80年間、我が国は一貫して、平和国家として歩み、世界の平和と繁栄に力を尽してきました。悲痛な戦争の記憶と不戦に対する決然たる誓いを世代を超えて継承し、恒久平和への行動を貫いていく。今を生き

今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました
が、多くの苦難に満ちた
国民の歩みを思うとき、
誠に感慨深いものがあります。
戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たちは皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。
ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み深い反省の上に立つて、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い

午前11時51分、開会が宣言され、全員が起立して両陛下を迎えた。国歌斉唱に続き、石破総理が式辞を述べた。「すべての御靈の御前（おんまえ）にあつて、御靈安かれと、

当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦においてかけがえのない命を失つた数多くの人々と、その遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

「我が国は国民の懸念な努力によって、世界有数の民主主義国家となり平和と自由を享受していが、国を思い、最愛の

る」といった自分の思いが含まれていると押し付けになつたり、見返りを求めるものになりやすい▼一方で、人間の意思を超えたものに促されるときに利他が生まれるとも書いている。人知を超えたところに利他が宿る。宗教と深く関係しているということだ。

実践の一つだ。ただ、宗教関係のグループのボランティアに対し「信者の勧誘のため」といつた揶揄を目にしたことがある。宗教に対する警戒心、あるいは無理解がそのような思いを抱かせるのだろうが、残念である▼数年前に興味深い研究の報告を読んだことがある(『利他』とは何か、集英社新書)。東京工業大学の共同研究で、哲学や宗教、文化などの視点から利他を論じている。「これをして

この夏も、多くの地域で大雨などの自然災害が起きた。そして被害を受けた地域で、